

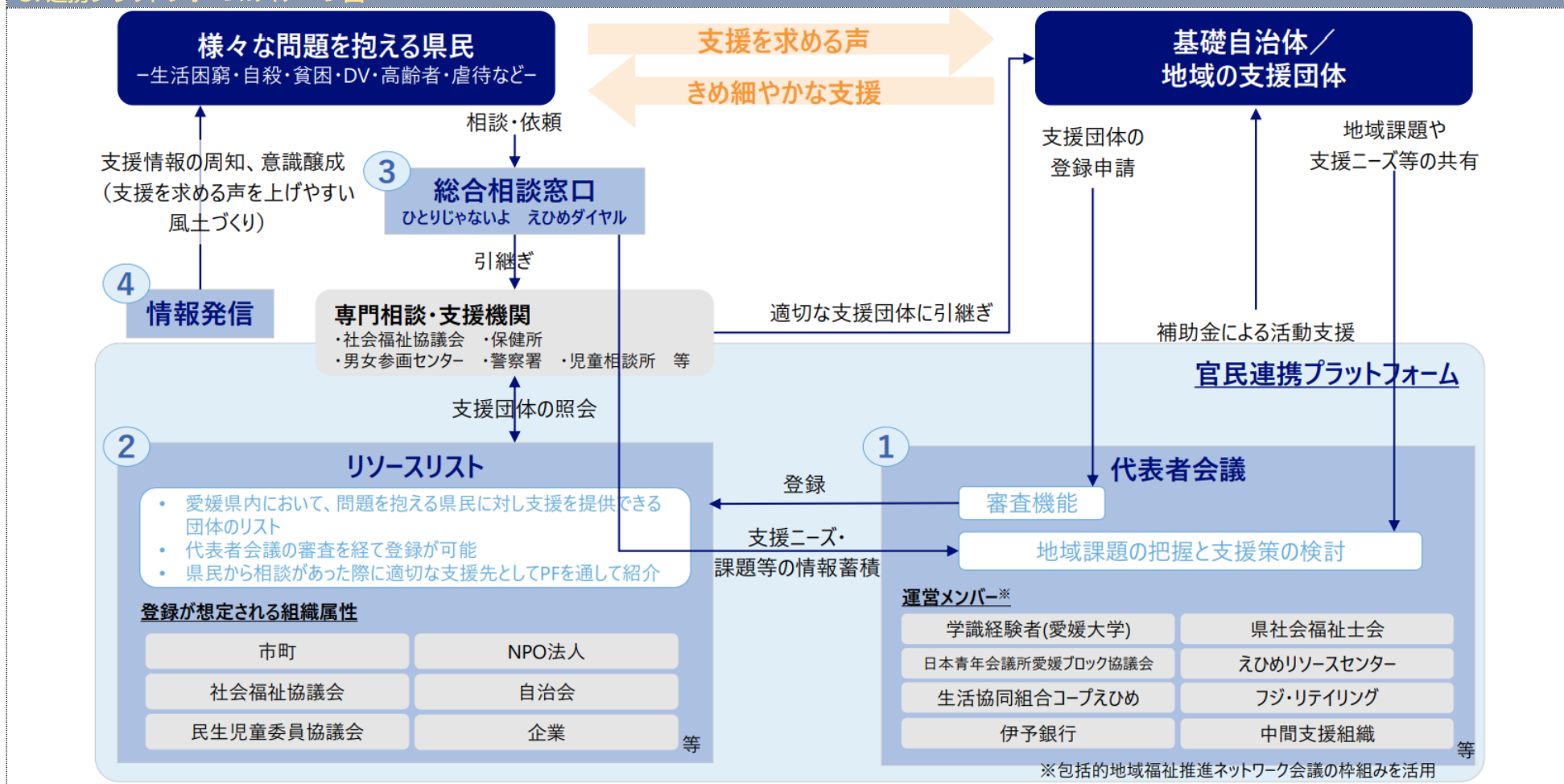
## 2-3. 愛媛県

No.	3	愛媛県
-----	---	-----

1. 取組の全体像					
1. 自治体の概要					
①	自治体名	愛媛県	②	担当部局名	保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課
③	人口	1,335,694(人) <令和2年10月/国勢調査>			
④	自治体内連携	庁内連携部局	保健福祉部(保健福祉課、子育て支援課、障がい福祉課、長寿介護課、健康増進課)、県民環境部(男女参画・県民協働課、人権対策課)、企画振興部(地域政策課)、教育委員会(人権教育課)		
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>部局横断的な企画内容・方針の意志決定</li> <li>関係機関(市町関係部署、社会福祉協議会等の関係団体)との情報共有・連絡調整</li> </ul>		
2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿					
①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年7月豪雨災害復興支援として、行政や社会福祉協議会、NPO法人、民間企業などが連携する基盤となる情報共有会議を設置。</li> <li>令和3年度より、国の動きを受けて愛媛県独自に「孤独・孤立対策支援事業」を開始。</li> </ul>			
		以前から取り組んでいたこと			
		調査	-		
		構想・方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策緊急総合支援事業(令和3~)</li> <li>地域支え合い・包括的地域福祉推進事業(令和4~)</li> </ul>		
		体制	「包括的地域福祉推進ネットワーク会議(全県・地域別)」の設置(令和4~)		
		実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合相談窓口の設置(令和3~)</li> <li>孤独・孤立対策に取り組むNPO等への補助金(令和4~)</li> </ul>		
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を求める声を上げやすい風土づくり。</li> <li>支援ニーズに応じたきめ細かな支援体制の構築。</li> <li>全ての基礎自治体が官民連携PFに参画しており、PFを介して全県包括的に住民の支援の声を適切な支援団体につなぐことが可能な仕組みの構築。</li> </ul>			
3. 地方版連携 PF における連携体制					
①	連携先支援団体名	愛媛大学、愛媛県社会福祉士会、生活協同組合コープえひめ、フジ・リテイリング、JC愛媛ブロック協議会、伊予銀行、えひめりソースセンター、愛媛県社会福祉協議会、中間支援組織等			
		選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存会議体「包括的地域福祉推進ネットワーク会議」のメンバーに加え、県内において孤独・孤立の領域で知見を有する団体を追加</li> </ul>	協議体(既設/新設)	新設
②	支援団体との連携内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議体の開催(月1回) ※書面開催含む</li> <li>会議(名称:代表者会議)にて、県の孤独・孤立に係る課題・取組の情報共有</li> </ul>			
4. PF 連携による価値や工夫_考え方					
<ul style="list-style-type: none"> <li>包括的窓口による全県の課題・支援ニーズの把握。</li> <li>総合相談窓口や代表者会議での情報共有を通じて、県内で発生している課題・支援ニーズを集約し、必要な政策の検討に活用。</li> <li>全県の支援団体を集約したリソースリストの作成。</li> <li>きめ細かな支援提供を実現するため、県内における支援団体を掘り起こし、集約する。</li> <li>住民・地域からの相談・支援ニーズに対し、適切な支援リソースを紹介していく。</li> </ul>					

## 2. 連携 PF イメージ

### 5. 連携プラットフォームのイメージ図



地域連携プラットフォーム(連携 PF)の中で特に重要な機能は、大きく①代表者会議と②リソースリストの二つである。

①代表者会議は、連携 PF の運営メンバー間で定期的に行われる。運営メンバーから地域課題等について情報共有があり、それを受けて運営メンバーが県としての支援施策の方向性などを協議する。

②リソースリストとは、愛媛県内において孤独・孤立に関わる支援を提供できる支援団体のリストである。支援団体は、特設 HP を通じてリソースリストへの登録申請が可能であり、代表者会議において、申請内容の審査・承認が行われる。要支援者は、リソースリストで身近にある支援団体を自ら見つけることができるほか、総合相談窓口やそれ以外で要支援者から相談があった際には、相談を受けた組織・人物が、適切な支援団体がどこかをリソースリストを基に探し、紹介することができる。

3. 試行的事業一覧					
6. 本年度に取り組む試行的事業の概要					
試行的事業のポイント・工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域自治体として、全県にて孤独・孤立に取り組むを推進する意思宣言</li> <li>・ 政策検討に必要な実態の把握と、支援提供に必要な基礎自治体と地域の支援団体の巻き込み</li> </ul>			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	地域の実態把握調査	<b>【調査対象及び調査対象者数】</b> 満 16 歳以上の個人 3 地域(東予・中予・南予)×年代の割付が実際の愛媛県の人口分布と比例するように回収数を調整(計 2,000 程度の想定) <b>【調査事項】</b> 孤独に関する事項、孤立に関する事項、その他関連事項、属性事項 <b>【設問数】</b> 国の調査に準じた設問(27 問)+本県独自の設問(3 問) ※設問の内容については、連携 PF の構成団体の意見も踏まえて設定 ※先行して調査を実施していた鳥取県での議論も参考に追加の調査項目を設定 <b>【調査方法】</b> WEB 形式で回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国版調査結果と比較した愛媛県における孤独・孤立調査における実態比較の把握</li> <li>・ 愛媛県独自に調査する「孤独・孤立の具体的なお困りごと」「孤独・孤立が解消したきっかけ」についても把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓11 月:調査方針、体制の検討</li> <li>✓12 月:調査設計、手続き</li> <li>✓1 月:実査、集計、分析</li> </ul>	SRC
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 孤独感があると回答した人の割合は 7.5%で県の方が全国よりもやや上回る</li> <li>✓ UCLA 尺度では合計スコアが「10~12 点」で県の方が全国よりもやや上回る</li> </ul>		
②	孤独・孤立の認知向上(シンポジウム)	<b>【業務内容】</b> シンポジウムの開催(2/22)(150 分) <b>【対象】</b> メインターゲット:県民 /サブターゲット:基礎自治体、支援団体 <b>【次第】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛媛県の取組状況(実態調査結果):県保健福祉課</li> <li>・ 政府の問題意識・取組内容の紹介:大西内閣官房政策参与</li> <li>・ パネルディスカッション               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ テーマ:「声をあげやすい社会、声をかけやすい社会、多様な主体が関わり合い、支え合う社会の実現」</li> <li>➢ 登壇者:大西内閣官房政策参与、宇和島市高齢者福祉課(自治体代表)、西条市市民活動支援センター(中間支援組織代表)、NPO 法人うわじまگرانマ(支援団体代表)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立に関する認知度・理解度の向上</li> <li>・ 孤独・孤立に支援を提供できる団体の掘り起こし・巻き込み</li> <li>・ 愛媛県として本格的に本テーマに取り組む旨の宣言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓12 月:開催方針の検討、委託先の調整、日程・会場調整</li> <li>✓1 月:広報</li> <li>✓2 月:開催、事後アンケート分析</li> </ul>	イス・ピー・シー
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ シンポジウム参加者数               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 参加方法 :オンライン 40 名、対面 40 名</li> <li>➢ 参加者属性:個人 40 名、支援団体 40 名</li> </ul> </li> <li>✓ リソースリストへの登録団体の数(今後登録)</li> </ul>		
7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携プラットフォーム(地域の支援リソースリスト)の拡充を図るとともに、PF を活用しながら、官民が連携して、当事者に対するきめ細かな支援を行っていく。</li> <li>・ 地域の支援団体の活動をサポートするため、引き続き、支援活動に対する財政支援を検討する。</li> </ul>					
8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 24 時間対応の相談窓口を設置した際は、マスコミにも好意的に取り上げられ、県民から多くの相談が寄せられた。</li> <li>・ 試行的事業を通じたシンポジウム開催後は、各種メディア(TV、新聞等)から孤独・孤立対策の政策の方向性や実態調査の結果について多く取材が入り、域内での意識醸成につながった。</li> </ul>					

## 4. 連携PFの行程および実務上の留意点

### (ア) 初期段階

①	主担当部署の設定	<p>■一過性の新型コロナウイルス感染症対策から平時的な支援として捉え直し、保健福祉部で所管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年2月に国において孤独・孤立対策の担当大臣が設置された。国の孤独・孤立対策への状況を踏まえつつ、愛媛県でもコロナをきっかけに問題が深刻化・表面化してきた認識があった。</li> <li>令和3年度、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、県民環境部(主に人権対策等を所管)によって孤独・孤立対策が推進されてきた。令和4年度からは、孤独・孤立は、新型コロナウイルス感染症対策のような一過性の問題ではなく、平時の取組とすべきと判断され、保健福祉部に孤独・孤立対策の所管部署が設定された。保健福祉部に設定された理由は、孤独・孤立は、その背景にある複数の社会問題から引き起こされているものであり、その多くは、福祉対策に関連するという判断があった。</li> </ul>
②	地域の現状把握	<p>■総合相談窓口への相談内容の集約と実態調査により、地域の現状を把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度に電話による24時間体制の総合相談窓口を開設。4年度は「ひとりじゃないよ えひめダイヤル」として24時間体制の総合相談窓口を改めて設置し、寄せられる相談内容を集約。また、令和4年度は、県内に居住する個人を対象に孤独・孤立に関わる実態把握調査をwebアンケートにて実施し、地域の現状が把握された。</li> <li>一方で、愛媛県と支援団体との連携はこれまで多くはなく、支援団体側の感じている課題について、県として十分に把握できていない側面も大きかった。連携PFを通じて、支援団体側との連携強化を図り、地域の現状課題を多角的に把握する重要性が認識されるようになった。</li> </ul>
③	連携PFの運営形態の検討	<p>■豪雨災害からの復興支援の一環で設立された既存の会議体を基盤として活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年豪雨災害に対する復興支援として、行政や社会福祉協議会、NPO法人、民間企業などが連携する基盤となる情報共有会議が設置された。これを基盤に令和4年度からは、包括的地域福祉を推進するため、「包括的地域福祉推進ネットワーク会議」が設置された。これにより、域内支援団体とのネットワーク基盤が構築されたため、地域連携PFも、このネットワーク会議のメンバーを中心に設置することとなった。</li> <li>ただし、参画メンバーはネットワーク会議のメンバーを主要としつつ、会議体としては新規に設立されている。理由は、既存会議の新アジェンダに組み込むよりも、新規に会議体を設置する方が会議の意義が明確になり、関係者間での意識醸成にもより効果的と考えられたためである。</li> </ul>

(イ)準備段階

①	連携 PF の企画・設 計	運営 方針	<p>■<u>地域の課題・ニーズの集約と、それを踏まえた広域自治体が目指すべき支援施策を議論</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>愛媛県においては、孤独・孤立対策は令和 3 年度からの取組であり、地域の現状の課題やそれに基づいた支援方策の方針は明確に定められていなかった。</li><li>そのため、連携 PF は、関係団体と定期的に情報共有・意見交換を行うことで具体的なニーズ等をリアルタイムで把握し、支援方策の方向性を関係団体とともに検討していく場とすることされた。</li><li>会議のアジェンダは、愛媛県全域における孤独・孤立に係る課題・取組の情報共有が主である。加えて、「リソースリスト(孤独・孤立に関わる域内支援団体を包括的に集約したリスト)」の認証の場ともなる。この 2 つの主目的のもと、連携 PF を運営していく方針とされた。</li></ul>
		主要 機能・ 施策	<p>■<u>孤独・孤立に関わる域内支援団体を包括的に集約したリソースリストの作成</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>県内に存在する孤独・孤立に係る支援団体を可能な限り包括的に把握し、「リソースリスト」を整理することとされた。現場で支援ニーズが発生した際には、「リソースリスト」に掲載のある支援団体を紹介することで、より適切な支援を要支援者に提供できる仕組みの整備が目指された。</li><li>「リソースリスト」には、県の孤独・孤立対策の特設 HP から支援団体によって申請が可能となっている。申請した支援団体は、地域連携 PF の代表者会議での審査を経て登録が完了する仕組みである。</li></ul>
②	連携 PF 参加者の 検討	庁内	<p>■<u>孤独・孤立の背景にある個別課題を所管する部署の横断的巻き込みを目指す</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和 3 年度に孤独・孤立対策を所管していた県民環境部と、令和 4 年度から所管するようになった保健福祉部とは、関係機関(市役所内の部署、社会福祉協議会等の関係団体)との連絡調整において連携されている。</li><li>一方で、孤独・孤立対策の背景にある個別問題(ひきこもり、障害者など)を包括的に対処していくためには、保健福祉部以外の部署との連携も必須になる。今後は、実態調査結果や具体的な現場課題を踏まえ、他部署との連携施策を検討していく方針とされている。</li></ul>
		外部 団体	<p>■<u>基盤の会議体に加え、各地域の中間支援組織を参画メンバーに追加</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>基本的には「包括的地域福祉推進ネットワーク会議」の参画メンバーが連携 PF の参加者となっている。これら参画メンバーは以前より、孤独・孤立に関する問題意識が高かったため、合意形成もスムーズに進められた。</li><li>新たなメンバーとして、各地域(東・中・南予)の代表的な中間支援組織の参画が得られた。孤独・孤立対策においては、その背景にある個別課題へ複合的に対処していくことが求められる。よって、中間支援組織が間に入り、上手く個別課題と複合課題を両睨みで並行して対処することが重要と考えられたためである。</li></ul>

(ウ) 設立段階		
①	連携 PF 内での 連携・協業	<p>■<u>連携PFでは、定例会議を月1回の頻度で開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携PFでは、「連携 PF 代表者会議」という定例会議が定期的で開催されている。</li> <li>・ 会議立ち上げ初期は、孤独・孤立対策の必要性や、それに基づいた連携 PF の運営方針について、参画メンバーと議論・検討がなされた。</li> </ul>
②	域内住民・関係団体 への情報発信	<p>■<u>特設サイトを開設し、シンポジウムでの周知を図る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ひとりじゃないよ！愛媛県」として、孤独・孤立対策に係る相談窓口兼支援情報サイトがリニューアルされた。サイトは、テレビ CM や新聞などを通じて、告知が進められた。</li> <li>・ 立ち上げに際し、「ひとりじゃないよ！えひめシンポジウム」を開催し、域内に県の取組状況の情報発信と、それに伴う域内住民や関係団体内での意識醸成が行われた。</li> </ul>
③	優先的に取り組む 課題・今後の方針	<p>■<u>孤独・孤立の背景にある個別課題への対応の受け皿を拡充</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立対策では、その背景にある個別課題へ複合的に対処していくことが求められる。対応可能な個別課題を拡充していくためにも、庁内他部署や支援団体との連携強化の必要性が高いと認識されている。構築されたネットワークは、「リソースリスト」の拡充にもつながるものと考えられている。</li> <li>・ 多くの支援団体は、「孤独・孤立対策」を目的として実施しておらず、背景にある様々な個別課題(生活困窮、ひきこもり等)に対して活動を行っていると認識されている。PF メンバーには従前どおり、個別課題に対する支援活動に集中してもらいつつ、行政や中間支援組織が俯瞰的に孤独・孤立対策の全体像を把握し、上手くマネジメントする関係性の構築が目指されている。</li> </ul>

## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

### 西条市市民活動支援センター

- ・ 西条市市民活動支援センターは、市民が自発的に行う公益的な活動(市民活動)を総合的に支援し、団体相互の交流・連携を促進するとともに、市民と行政の協働によるまちづくりを推進する目的で設置された。
- ・ NPO 法人、ボランティア団体、地縁組織(自治会など)および個人が行う公益的な活動や企業の社会貢献活動などに広く支援を提供している。

#### 📍県からの連携 PF への参画依頼が、組織の存在意義の実感を醸成

- ・ 中間支援組織は、支援団体と個人をつなげていくことが主な役割であり、直接的な支援を提するケースは少ない。そのため、あまり認知度も高くない。これまで、現場で支援をおこなっていないという意味では、遠慮する部分もあったが、今回、連携 PF の形成においては、中間支援組織の機能が重要であるというお墨付きを県から貰える形にもなり、組織の存在意義を再認識し、進めてきたことが間違っていなかったと実感した。
- ・ これまで行政が社会福祉協議会や同系のボランティア団体と連携することはあったが、NPO 団体との連携はあまりなかった。そういった意味でも、新しいスキームをつくれたことが組織にとっては大きい。

#### 📍孤独・孤立対策の重要性は、日々の活動で感じていた問題意識と整合しており、スムーズに合意形成が取れた

- ・ 日々の活動で NPO 団体やボランティア団体から上がってくる問題意識は、孤独・孤立に関わるものが多かった。そのため、連携 PF 設立の重要性についてもスムーズに腹落ちすることができ、県から話をもらった時には、即時に受け入れることができた。
- ・ 孤独・孤立とは、ひきこもりや障がい者、子育てなど個別課題が複合的に発生して生み出される複合課題である。そういった意味では、各支援団体は個別課題に向き合っているために、彼ら自身が孤独・孤立に関わっているという自覚が薄いかもしれない。個別課題の解決が孤独・孤立の解決にもつながるという点についての認知度を高めつつ、各支援団体を孤独・孤立という共通テーマでつないでいくことが中間支援組織に求められる機能だと感じている。

#### 📍中間支援組織として自治体と支援団体の間に入り、翻訳機能として取組の後方支援を目指す

- ・ 「孤独・孤立」という言葉は、強い表現であり、支援現場で支援団体や要支援者が使うことは想定されにくい。また、要支援者は自分が孤独・孤立であることを認めたくないものである。あくまでも孤独・孤立は支援側の共通“裏テーマ”として持つべきものである。
- ・ よって、行政から孤独・孤立を理由に要支援者にアプローチしづらい状況が発生する。この間に中間支援組織がうまく入り、行政の意図や目的を上手く通訳して、要支援者や支援団体側に伝えていくことが重要な役割と認識している。逆もしかりであり、要支援者が直接行政に言えないことを、支援団体や中間支援組織には言えるということもある。行政にとって、現場の状況をインプットする一つのチャネルとして中間支援組織は機能していけると考える。



県民ひとりひとりの心や生活に寄り添う支援では、多様な組織や方法の幅を広げることでより多くの方へのアプローチが可能になると考える。各組織のネットワークを活用し、点から面への支援体制構築に向け取組をすすめていきたい。

西条市市民活動支援センター 事務局長  
戸田 聖子

## 5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	出席者	
			打合せ相手	NRI
1	10/5(水) 10:30-12:00	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	松本様、青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
2	10/25(火) 10:00-11:30	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
3	11/17(木) 17:30-19:00	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、石垣
4	12/1(木) 11:00-12:00	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
		SRC	砂川様他	
5	12/8(木) 16:00-17:00	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
6	12/20(火) 11:00-12:00	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
7	1/10(火) 16:30-17:30	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、石垣
		SRC	砂川様他	
8	1/20(金) 13:30-14:30	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
		SRC	砂川様他	
9	2/3(金) 11:00-12:00	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
		SRC	砂川様他	
10	2/7(火) 11:00-12:00	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
11	2/7(火) 16:30-17:30	西条市市民活動支援センター	—	谷本、生駒、石垣
12	2/8(水) 11:30-12:30	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
		SRC	砂川様他	
13	2/27(月) 15:30-16:30	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒、石垣
		SRC	砂川様他	
14	3/17(金) 11:00-12:00	愛媛県庁 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課	青野様、越智様	谷本、生駒



【自治体による従前からの取組】

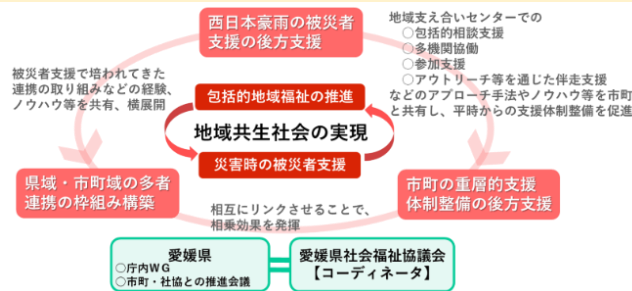
■ 愛媛県における前提

愛媛県では、平成 30 年度の西日本豪雨災害によって、多様な主体が連携する仕組みが構築されてきた。そのノウハウを生かし、被災者支援以外についても平時の包括的地域福祉の推進につなげるべく、事業を進めてきた。

1. 愛媛県における孤独・孤立対策

■ 本県の取組みにおける前提

- 西日本豪雨の被災者支援において、南予地域で多様な主体が連携する仕組みが構築される
  - そのノウハウや手法を県下全域に共有・横展開することで、災害時の被災者支援だけでなく、平時の包括的地域福祉の推進につなげようとしている
- 全県、エリアレベルの多者連携ネットワークをプラットフォームとして活用



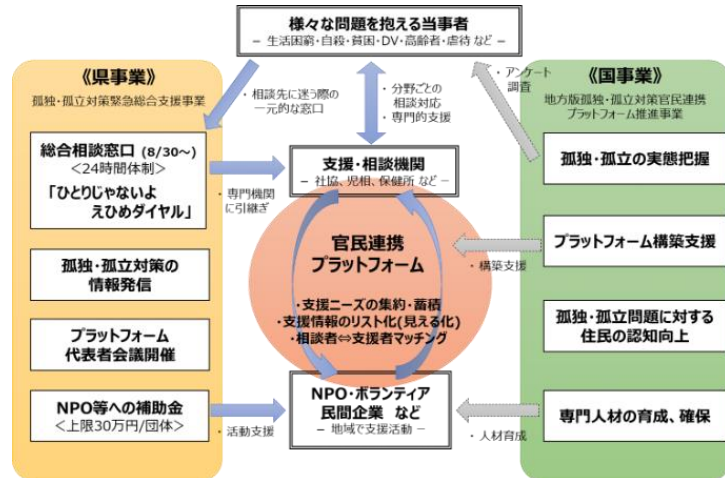
図表 愛媛県のこれまでの取組経緯

■ 愛媛県によるこれまでの孤独・孤立対策の概要

愛媛県では、本事業における地域連携プラットフォームの構築に加えて、24 時間体制の総合相談窓口「ひとりじゃないよ えひめダイヤル」など、独自で推進している孤独・孤立対策に係る事業が存在する。その全体像は、下図の通りである。

1. 愛媛県における孤独・孤立対策

■ 県が実施する孤独・孤立対策の概要



図表 愛媛県の孤独・孤立対策に関わる事業の全体像

## 【本業務にて実施した試行的事業の詳細】

### ■ 地域の実態把握調査

#### (目的)

- 全国版調査結果(内閣官房実施)と比較した愛媛県における孤独・孤立調査における実態比較の把握
- 愛媛県の独自に調査する、「孤独・孤立の具体的なお困りごと」「孤独・孤立が解消したきっかけ」についても把握

#### (実施内容)

##### 【調査対象及び調査対象者数】

- 満 16 歳以上の個人
- 3 地域(東予・中予・南予)×年代の割付が実際の愛媛県の人口分布と比例するように回収数を調整(計 2,000 程度の想定)

##### 【調査事項】

1. 孤独に関する事項: 孤独感(UCLA 孤独感尺度・直接質問)、継続期間、これまでに経験したライフイベント(家族との離別・死別、人間関係の重大なトラブル等)、社会や他人とのかかわり方の満足度
2. 孤立に関する事項: 外出頻度、外出目的、社会的交流(家族・友人とのコミュニケーション手段や頻度)、社会参加(活動への参加状況)、各種支援の状況
3. その他関連事項: コミュニケーションツールの利用状況、不安や悩みの相談相手の有無、不安や悩みを相談する際の感情、心身の健康状態、コロナ禍におけるコミュニケーションの変化・生活の変化、孤独・孤立解消のきっかけ
4. 属性事項: 年齢、性別、同居人の有無・数、就業状態、世帯の年間収入

##### 【設問数】

- 国調査に準じた設問(27 問) + 本県独自の設問(3 問)  
※設問の内容については、連携PFの構成団体の意見も踏まえて設定  
※先行して調査を実施していた鳥取県での議論も参考に、追加の調査項目を設定

##### 【調査方法】

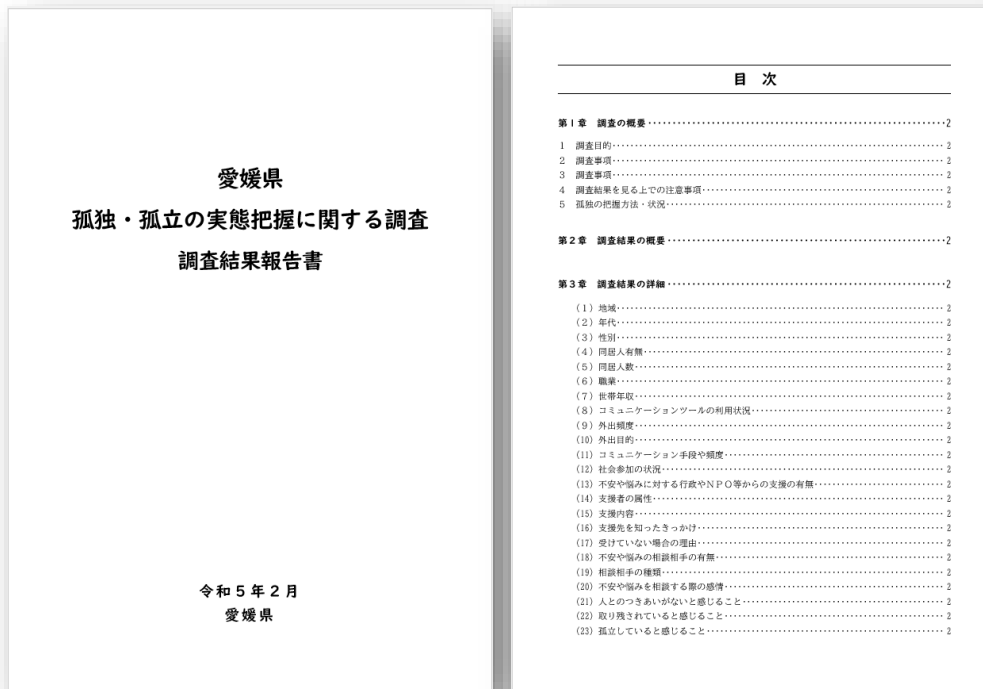
- WEB 形式で回答

#### (実施結果)

- 孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、本調査では2種類の設問を採用。
- 直接質問
  - 直接的に孤独感を質問。直接質問の結果、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は 7.5%、「時々ある」が 12.8%、「たまにある」が 24.3%であった。一方で孤独感が「ほとんどない」と回答した人は 41.8%、「決してない」が 13.8%であった。
  - 直接質問を国の調査(令和 3 年実施)と比較した結果、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、県の方がやや上回る。(県調査 7.5%、国調査 4.5%)また、「決してない」と回答した人の割合は、県の方が 9.9 ポイント低くなっている。(県調査 13.8%、国調査 23.7%)
- 間接質問
  - 直接的に孤独感を質問。直接質問の結果、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は

7.5%、「時々ある」が 12.8%、「たまにある」が 24.3%であった。一方で孤独感が「ほとんどない」と回答した人は 41.8%、「決してない」が 13.8%であった。

- 間接質問を国調査(令和 3 年実施)と比較した結果、合計スコアが「10～12 点」の人は、県の方がやや上回る。(県調査 10.1%、国調査 6.3%)また、「3点」の人は、県の方が 9.6 ポイント低くなっている。(県調査 8.9%、国調査 18.5%)



図表 「孤独・孤立の実態把握に関する調査」調査結果報告書

## ■ 孤独・孤立の認知向上(シンポジウム)

### (目的)

- 孤独・孤立に関する認知度・理解度の向上
- 孤独・孤立に支援を提供できる団体の掘り起こし・巻き込み
- 愛媛県として本格的に本テーマに取り組む旨の宣言

### (実施内容)

#### 【業務内容】

- シンポジウムの開催(2/22)(150分)

#### 【対象】

- メインターゲット:県民 / サブターゲット:基礎自治体、支援団体

#### 【次第】

- 愛媛県の取組状況(実態調査結果):県保健福祉課
- 政府の問題意識・取組内容の紹介:大西内閣官房政策参与
- パネルディスカッション
  - テーマ
    - 「声をあげやすい社会、声をかけやすい社会、多様な主体が関わり合い、支え合う社会の実現」
  - 登壇者:
    - 大西内閣官房政策参与
    - 宇和島市高齢者福祉課(自治体代表)
    - 西条市市民活動支援センター(中間支援組織代表)
    - NPO 法人うわじまグランマ(支援団体代表)

### (実施結果)

- ポスターを作成し各種メディア(新聞、TVCM など)を通じて広報を行い、ハイブリッド形式で開催。対面 40 名、オンライン 40 名の計 80 名の参加があった。参加者属性は、NPO 法人や社協に加え、個人からの参加も約半数を占めた。
- 本シンポジウムの目的は、愛媛県が今後、孤独・孤立対策に取り組んでいく旨の宣言と、その政策の認知度向上であった。よって、まずは愛媛県から、孤独・孤立に関する問題意識の共有(実態調査の結果報告含む)と、それに対する連携 PF を基盤とした支援政策の方向性について、講演があった。
- その後、大西内閣官房政策参与より、NPO 法人代表からの立場で孤独・孤立の理解と問題意識、また、国の立場として、全体の政策の方向性について、講演され、域内住民・関係団体における孤独・孤立に関する理解度の向上を図った。
- 最後にパネルディスカッションでは、行政、支援団体、中間支援組織という 3 つの異なる立場から、孤独・孤立対策において求められる役割を自身の経歴や団体での取組内容を踏まえて、意見交換を行った。議論の中では、孤独・孤立は複合的な課題であり、個別課題に対して、いかに多くの主体が関わり、幅広い支援体制を地域で構築していくかが重要、という提言が行われた。

	タイムスケジュール	アジェンダ
ひとりじゃないよ えひめシンポジウム  令和 5年 2月22日 (水)  ※ハイブリッド開催	13:30	開会 愛媛県 保健福祉部 菅部長 「主催者挨拶」
	13:35	基調講演 愛媛県 同部社会福祉医療局保健福祉課 越智課長 「愛媛県の孤独・孤立対策について」
	14:05	基調講演 内閣官房 孤独・孤立対策担当室 政策参与 大西様 「孤独・孤立問題の現状と政策の方向性」
	15:15～16:00	パネルディスカッション コーディネーター： 内閣官房孤独・孤立対策担当室 政策参与 大西様 パネラー： 宇和島市 高齢者福祉課 課長 岩村様 西条市市民活動支援センター 事務局長 戸田様 NPO法人うわじまグラマ 代表理事 松嶋様
	16:00	閉会

図表 シンポジウムのアジェンダ

▼パネルディスカッションの様子



▼大西参与（左）、越智課長（右）のご講演の様子



▼シンポジウムのポスター掲示



▼特設HPの広報



図表 当日の現場の様子